

書窓

Shoso

No.455

2023.4

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561
兵庫県揖保郡太子町鰯
1310 番地 7

Tel (079)277-1580
Fax(079)277-5684

子どもの本だな 113

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

うんがにおちたうし

フィリス・クラシロフスキー 作 みなみもと ちか 訳
ピーター・スパイアー 絵 (ポプラ社)

オランダの畑に暮らす牛のヘンドリカは、ミルクを出すために来る日も来る日も草を食べる退屈な毎日を過ごしていました。ある日、ヘンドリカは誤って運河に落ちてしまいます。流れてきた大きな木箱に乗かって川を下り、とうとう町に着きました。ショーウィンドウをのぞき、家の中庭にとびこみ、自転車の匂いをかぎました。町にはめずらしいものばかり。大きな広場に着くと、色とりどりの麦わら帽子をかぶった人が大勢いました。ヘンドリカは、緑色の麦わら帽子をかじっているところを飼い主のおじさんに見つかりました…。

オランダの牧歌的な風景や、活気あふれる町の空気をヘンドリカと一緒に感じられます。鮮やかな緑と水色の絵が見開きいっぱいになり、ヘンドリカが町を見て回る様子が、躍動感あふれる絵でコミカルに描かれています。読んでもらえば4歳くらいから楽しめます。(光藤)

ウィリアムの子ねこ

マージョリー・フラック 作・絵
まさき りこ 訳 (徳間書店)

ある日、ウィリアムが外で遊んでいると、小さな子ねこがついてきました。ウィリアムは子ねこにピーターと名前をつけ、うちで飼おうと思いました。お母さんに、迷子かもしれないから警察署長さんに聞いておいでと言われたウィリアムは、兄姉と一緒に警察署へ行きました。署長さんは、迷子猫の届けはないかすぐに調べてくれました。届けは3件。署長さんが連絡し、やってきた3人は皆ピーターを見るなり「うちのねこだ!」と言いました。3人が探していたのは、このピーターだったのです。

迷い猫を見つけたお礼として、ウィリアムがピーターの飼い主になりました。1年後、ピーターが産んだ3匹の子ねこが3人の元へ届けられる結末に喜びと幸せを感じます。丁寧に描かれた挿絵は、黄色を基調とした明るい色合いでお話の雰囲気によく合っています。読んでもらえば4～5歳から。(池之上)

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	×	5	6	7	8
9	10	×	12	13	14	15
16	17	×	19	20	21	22
23	24	×	26	27	28	29
30						

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土	
		×	×	3	4	5	6
7	×	×	×	10	11	12	13
14	15	×	×	17	18	19	20
21	22	×	×	24	25	26	27
28	29	×	×				

< お知らせ >

一日図書館員を募集します

本の整理、貸出や分類など図書館の仕事を経験してみませんか?

・日時：2023年4月23日(日)
9:15~16:00

・対象：小学6年生~高校3年生
(図書館の利用者で、責任をもって仕事のできる人。)

・定員：3名
(申込多数の場合は抽選)

・申込方法：本人来館の上、窓口で申込してください。

・申込期限：4/16(日)18:00まで

▶ ×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。
(5/1、5/8、5/10は祝日の振替、5/31は館内整理日)

▶ 開館時間は10:00~18:00、金曜日は20:00まで開館

『私のことば体験』 松居直 著

福音館書店 190頁 2022年9月刊 2,000円 (請求記号)Bマツ

本書は、子どもに寄り添い、読み継がれる絵本シリーズ「子どものとも」の初代編集長である著者の、ことばへの想いを綴った自伝である。

著者は幼い頃、母親に読んでもらった絵本で、白秋や八十など日本語の最高のことばを耳にして育った。読んだのではなく「聞いた」ことが、ことばに対する感覚を一番初めに開いたと語っている。敗戦を機に、「生きる」ということを強く意識するようになる。トルストイの本に出会ったことで、その考え方を聞けば、生きるということがどういうことかわかるかもしれないと感じた。また大学時代には、朗読で聞いた聖書に惹かれ、ことばには命があると思ひ、生きるということを考えてたとき、「ことば」が大切だと感じ始めていた。

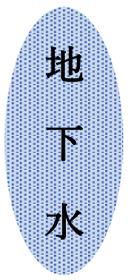
その後、金沢の小さな書店だった福音館の社長、佐藤喜一から誘いを受け、出版の世界へ入る。戦後の家庭教育に関心が高まる中、子どもに本を読んでやるのがとても意味のあることだと考え、家庭教育と保育にかかわる月刊誌「母の友」を創刊することとなった。「母の友」にたずさわる中で、日本の児童文学に限界を感じ、子どもの視点から描かれた作品を出そうと考えた。岩波書店の「岩波の子どもの本」が刺激となり、特に『ちいさいおうち』に負けない本を作りたいと思ったことが、月間絵本「子どものとも」の企画をする原動力となった。

家族、先生、石井桃子さんや加古里子さんなど、本を出版するにあたっての様々な人との出会いが詳細に語られている。人々との交流に加え、著者の感性、真摯に向き合うひたむきさで、今日のロングセラーとなる絵本が作られていったことを感じる。常に新しいことを取り入れた編集者としての熱い思いも伝わってくる。生きること繋がることばについて、自身の体験と実感を通して、わかりやすい口調で語られている。安野光雄さんの表紙絵、挿絵があり、この本に絵本を開いた時のようなあたたかさを感じた。(福永)

4月	5月	4・5月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
6日	11日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
13日	18日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田地区 農村交流 センター 16:00~16:20
20日	25日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >
おりがみで
フラワーボックスを作ろう!

- ・日時：2023年5月7日(日)
10:30~12:00
- ・場所：図書館 読書会室
- ・対象：5歳以上
(3年生以下は保護者同伴)
- ・定員：8名
- ・持ち物：のり・はさみ
- ・参加費：無料
- ・申込：太子町立図書館
※定員になり次第、締め切ります。
※詳しくは太子町立図書館まで。



3月の終わりに、おはなしの部屋の天井修理工事が完了した。11月から部屋が使用できず、子ども向け行事の「絵本の時間」や「おはなしの時間」は、読書会室の半分を区切ってじゅうたんスペースを作り、何とかしのいでいた。毎週土曜日に開いているおはなしの時間は、照明を少し暗くした部屋でろうそくをつけ、職員が昔話などを語る。子どもにとって日常のざわめきから離れた特別な空間となる。子どもの時におはなしの時間の常連だった人で、「あの部屋の雰囲気が好きだった」と言う人も多い。ここ何か月か、部屋が違うせいかどうかはわからないが、おはなしの時間に来る子どももがかなり減っており、1人か2人という日も。4月からはいつものおはなしの部屋で再開する予定なので、またたくさんの子どもたちが来てくれると嬉しい。

令和5年度は、図書館が開館40周年を迎える。文化会館、歴史資料館は30周年。文化村では色々記念行事を企画している。図書館では、本の楽しみを伝えられるような行事を考え中だ。よい企画アイデアがあれば、ぜひ伝授ください。(池田)